

スポーツマネジメントと地域活性化に関する調査研究

背景

平成 22 年は、「スポーツ」が秋田県民の大きな注目を浴びた年であった。秋田県初のプロスポーツチーム「秋田ノーザンハピネッツ」（プロバスケットボール bj リーグ）が発足し、県は「スポーツ立県」を宣言した。

もとより、秋田の高校スポーツ活動は盛んで、バスケットの「能代工業高校」、ラグビーの「秋田工業高校」はよく知られた存在である。

第 1 章 スポーツとマネジメント

「見るスポーツ」と「するスポーツ」の視点から、国内スポーツ関連産業の概況を捉え、その動向を探った。近年は、人々の健康志向を受けてスポーツへの関心は高まりつつあり、スポーツを巨大なビジネスと認識する。

第 2 章 市民スポーツで地域活性化を

「するスポーツ」の代表として、県内で 29 大会が開催されている“市民マラソン”を取り上げた。

アンケートの回収率は、65%と高い。大会は、近年「地域 PR」色を強め、大会平均参加人員は直前大会で 973 名（うち地元以外 56.3%）で、これを 343 名の運営要員（ボランティア 68.5%）が支え、「ボランティアの確保」が大きな課題と認識する。大会運営コスト等についても、有益な回答を得た。課題は、①大会運営にあたっての大会コンセプトの再認識と組織的浸透の必要性、②運営マニュアルの明文化と周知徹底、③ボランティア育成への連携である。

事例研究では、100 km マラソンを育んできた岩本俊悦事務局長から、大会成功の要因、現在の課題、成果を教示いただき、「継続」を支える人材の重要性を指摘した。

第 3 章 スポーツチームによる地域活性化

秋田県にプロスポーツ元年を齎した「秋田ノーザンハピネッツ」について、設立の経緯、理念、ステークホルダー（ボランティア、行政、地域住民）との接点、また組織やビジネスモデルについて分析し、秋田におけるプロスポーツの可能性を検討した。

同様にラグビーの「秋田ノーザンブレッツ R.F.C」、サッカーの「ブラウブリッツ秋田」、スポーツによる地域活性化を目指す NPO 法人「トップスポーツコンソーシアム秋田」の活動事例を調査分析した。

第4章 スポーツによる地域活性化のための提言

市民スポーツイベントによる地域活性化は、「継続的に実施される。」ことにより、地元での繋がりが定着し、さらに外と繋がりブランドとなる構図と、見える。そのためには、明確な大会固有のコンセプトを確立し、IT 情報網等にのせて発信し、他大会と差異化したステイタスを築くことが必要で、関係者のさらなる創意工夫の積み重ねの過程を通じ、次世代を担う若手人材の育成をあわせて図ることが求められる。結果として齎されるものは、他地域の交流によって得られる自地域の誇りであり、愛着ではないだろうか。

結論として、プロスポーツにあっては多様性を秘めた地域住民に開かれた「地域総合型スポーツクラブ」が目指すべき方向である。市民スポーツを通じた地域活性化では、「スポーツは地域資源」と捉え、「スポーツによる地域づくり」に向け、マネジメント能力を高めた「連携・協働」の推進基盤づくりが地域活性化に貢献する。